

# かけはしコラム

家庭と地域との心の架け橋を目指し、

R5. 8月号

子どもとの関わり方の一助となれる言葉を発信していきます

## ～夏休みこそ 紡ぎ直しを～

なが なつやす こ せつ じかん きゅう ふ こ はぐく じかん りょう たいせつ  
長い夏休み。子どもと接する時間が、急に増えました。子どもの育みには、「時間・量」も大切  
ですが、「質」の影響が大きいように思います。

こそだ そうだんしつ ばめん はは かあ  
子育て相談室のひとつ場面。「こんなに、してあげているのに…」(母)とお母  
さんは肩をすくめてらっしゃいます。一方、子どもの話を聴いていると「わたし  
なんて、どうせ…」(子)と、あたかも愛されていないかのように…。お互いが、  
かみあ合わないようです。

いと おも とど がわ う とど がわ そうほうこう やじるし  
“愛しみ”の思いを届けたい側、受け取りたい側、双方向の矢印があるように  
おも 思います。愛情の伝え方、伝わり方の「心のキャッチボール」は、ほんとう むずか



い です。子ども支援の現場にいますと、“甘え上手な子とそうでない子”も分かりま  
す。また、一生懸命に子のことを大切に思ってくださいにも関わらず、見えたり、聞  
こえたりする部分では、子どもにそれが伝わらず、結果子どもとの関係性が上手く  
いかずに苦しんでらっしゃる大人(親や支援者)の方にも出会います。

この心のキャッチボールのグローブ。いつも、開いているように思いません。時  
に“興味関心”“機嫌や気分”で、ミットが閉じたり、開いたりのタイミングが、様々に違います。届け  
る側のタイミングのミスマッチが、愛着形成を難しくさせているのではないのかと思います。愛が  
あるとかないとかでなく、愛情の伝え方、伝わり方をいつも考えながら相談を聴いています。わた  
しは いつも、チューリップに例えて考えます。子どもの心のグローブが開いたり閉じ  
たりする絶妙なタイミングで(心の状態に合わせて)、大人がタイミングよくプラスの  
ボール(肯定的な関り)を投げると、子どももニッコリ、そして大人もニッコリ。お互い  
に心地よいですね。

たが こち やさ こち じかん よゆう つむ  
お互いに“心地よい”“優しい”心のキャッチボール!時間に余裕があるうちに…紡  
ぎ直しを。

